

第12回富山県入札監視委員会の審議の概要

開催日及び場所	平成21年7月17日(金) 県庁4階大会議室		
委 員 (委員数5名) (出席数5名)	委員長 広瀬慎一(富山県立大学短期大学部非常勤講師) 委員 尾畠納子(富山国際大学現代社会学部教授) 委員 島谷武志(弁護士) 委員 土開由香(税理士) 委員 中村和之(富山大学経済学部教授)		
次 第	1 開会 2 入札・契約手続の運用状況等の報告 ① 富山県の入札・契約制度について ② 入札・契約方式別発注工事について ③ 一位不動入札、落札率100%入札、平成20年度落札率等について 3 審議対象工事からの抽出結果の報告(広瀬委員長) 4 抽出事案の審議 5 閉会		
審議対象期間	平成20年度下半期(同時期に請負契約を締結した工事)		
抽 出 事 案	10件(審議対象工事総件数1,055件)		
一般競争入札	3億円以上	1件	(事案1)神通川左岸流域下水道神通川左岸浄化センター水処理施設(9・10/16系列)土木工事
	1億円以上	1件	(事案2)富山県立八尾高等学校管理教室棟耐震補強工事
	2千万円以上	3件	(事案3)主要地方道砺波福光線道路改築新福野橋下部工工事 (事案4)片貝川広域基幹河川改修(布施川工区)護岸工第2工区工事 (事案5)土地総(担い手育成型)東石黒西部地区1号農道外工事
指名競争入札		4件	(事案6)一般県道石田前沢線県単独雪寒対策施設消雪配管工事 (事案7)上庄川水系論田川砂防改良護岸工工事 (事案8)五福公園県単独公園維持管理野球場スコアボード再塗装工事 (事案9)基幹水利施設ストックマネジメント事業早月川地区蓑輪頭首工電気設備工事
随意契約	1件	(事案10)和田川水道管理所薬注コントロールセンタ外復旧工事	
委員からの意見及び質問並びに当該質問に対する回答	意見・質問		回 答
	別紙のとおり		別紙のとおり
委員会としての意見	平成20年度下半期における建設工事に係る入札・契約については、概ね適正に行われていると判断する。		

別 紙

意見・質問	回 答
<p>○総合評価方式にて入札を行った工事（事案1及び事案5）について、入札参加業者数が少なかったのは書類の作成など業者側への負担増が原因ではないか。</p>	<p>通常の一般競争入札と比較すると総合評価方式では業者側への負担が増加することは否定できないが、書式の簡略化などにより負担を極力軽減するよう措置を講じている。平成21年度は約200件試行することとしており、今後とも事例を積み重ねよりよい制度となるよう検討していきたい。</p>
<p>○最低価格入札者が低入札価格調査の対象となった工事（事案2及び事案9）について、低入札が全国で問題視されできている中で、今後県として調査のさらなる厳格化や見直し等をする考えはあるか。</p>	<p>低入札価格調査においては、これまで主に工事の品質確保、下請企業へのしづ寄せ防止及び安全対策について重点的に審査してきたところである。近年では同調査により最低価格入札者を落札者としなかった事例はないが、今後、調査項目や方法等について他県の動向等も踏まえ検討していきたい。</p>
<p>○事案3の工事について、入札参加業者数が6者と少ないように見えるが、入札参加資格を設定した際、応札可能者数は何者と見込んでいたのか。</p>	<p>砺波土木センターの管轄内に主たる営業所があり、A又はB等級（土木一式）であり、かつ、工事成績の平均が一定の数値を超えるという条件を満たす業者は、約60者である。昨年南砺地方で発生した災害の復旧工事施工に伴い地元業者に受注余力がなかったのが要因の一つと考えられる。</p>
<p>○事案4の工事において、2つの工事を同時に発注し、最初に開札した工事の落札者が次に開札する工事の入札にも参加していた場合、当該業者の札は開かない方式（J0方式）をとったのはなぜか。</p>	<p>発注時期が10月で翌年3月末までに工事を完了させる必要がある中で、1者による施工では工期中に完成しない恐れがあること、また、工事の分割発注が技術的に可能であったことから、同方式をとったものである。</p>
<p>○事案10の工事について、緊急の必要により競争入札に付することができないときに該当するとして随意契約を行ったとのことだが、当該業者を契約相手に選定した理由は何か。</p>	<p>県内で施工可能と考えられる業者は2者いるが、緊急に対策工事を実施し安定した上工水供給を行うことが求められる中で、過去に同種の工事を複数回受注した実績を主に重視し、同業者を選定したものである。</p>
(その他)	